

温暖化防止の視点からの日中大学生のライフスタイルに関する考察

平成 25 年 2 月 松元 隆志

要旨

目的

近年、地球温暖化が深刻な問題となっている。二酸化炭素排出量削減がうたわれている状況下で、大学生が個人としてどのような防止策を行えるのかを大学生のライフスタイルに関する研究と考察を行い、温暖化防止に貢献でき、且つ経済的にもプラスになる大学生のライフスタイルを提案する。

方法

日本の大学生 217 名、中国の大学生 140 名、合計 357 名の大学生を対象にライフスタイルに関するアンケート調査を行った。そして、調査のデータに基づいて集計・分析をし、その中から日常生活における防寒・防暑対策、移動手段、温暖化に対する考え方に絞り、二酸化炭素排出量とそれに伴う経済的支出について考察を行い、算出された数値から環境への負荷の少ない大学生のライフスタイルを提案する。

結論

日本と中国の大学生のライフスタイルはそれぞれ特徴があるが、地球温暖化の深刻性と防止の為には 1 人 1 人の行動が重要であるという認識では一致している。しかし、実際には個人でもできる地球温暖化の防止策に取り組んでいる学生は両国共に少なく、環境面に違いによりそれぞれの国で特徴的な問題が存在することが分かった。しかし、本論文で提案したライフスタイルを両国の大学生が実施すると、直接的排出量の割合では小さいが、削減できる二酸化炭素排出量及び節約されるエネルギー量において膨大な量にあることと、経済的支出抑制による金額も大きな値になった。両国にとって、これからの経済産業界を牽引していく大学生が高い意識と継続性で問題に取り組めば、低炭素型社会実現に貢献できると思われる。

指導教員 曹 西 助教授